

「住吉の語り部になりたい」 シリーズ第 10 回

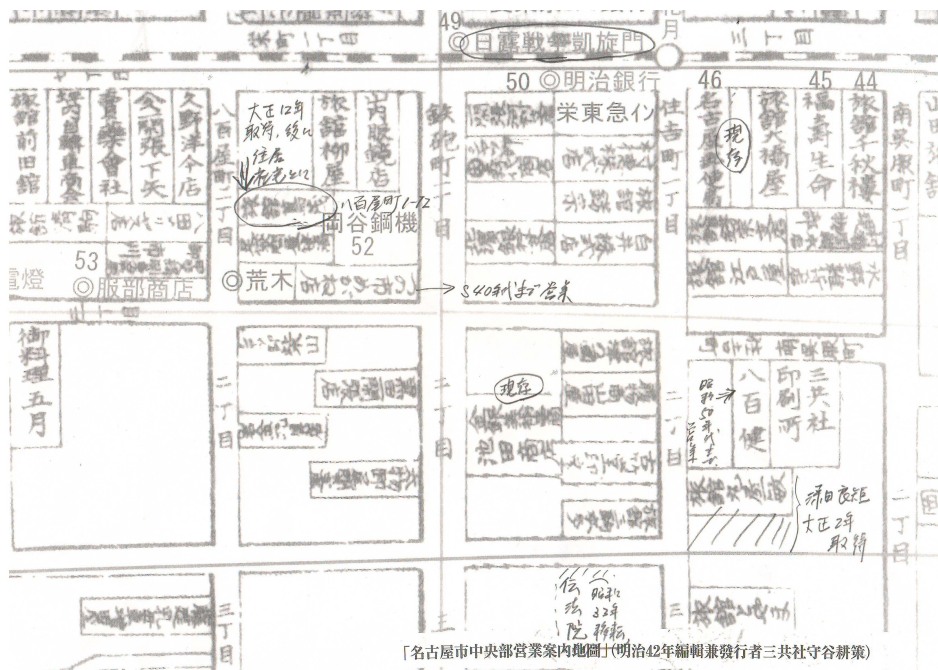
料亭つたも主人・深田正雄

2012 年 1 月 22 日

お蔭様で料亭蔦茂は創業 100 周年を迎えます。

大正 2 年に祖父、深田良矩が旅館蔦茂を取得して以来、皆様のご愛顧のお蔭で来年は創業 100 周年を迎えさせていただきます。今回からは祖父のエピソードを交えて蔦茂の変遷をお伝えしたいと思います。

「名古屋の旧町名を復活させる有志の会」北見昌朗さんが、**明治 42 年発行の市内中央案内地図**を多くの方々に配布されております。この地図広告を出した現存する住吉近隣のお店は、僅か 3 軒のみとなっております。住吉一丁目の名古屋郵便局、鉄砲町二丁目の金銀美術品商・池田商店、そして、八百屋町一丁目・蔦茂旅館が多少区画整理などあり場所が変化はしておりますが、営みを継続している店舗です。三業者（芸者・置屋・料亭）の街といわれる住吉は旅館という名前で割烹店が軒を並べていたことが分かります。この図から 4 年後の 1913 年に金融業者の深田良矩が現在地の旅館丸屋敏近隣と蔦茂を取得したように思われます。戦災で全て焼失して記録がないので、祖父の語りの思い出が頼りとなります。住吉町を蔦茂本店、そして、八百屋町の蔦茂は自宅と従業員の宿舎として利用していたと思われます。父、正矩は大正 7 年 2 月、次男次郎は大正 11 年に八百屋町一丁目 12 番にて出生届けが出されており、その後、営業主体は住吉に移っていたようです。



深田良矩は海部郡蟹江村須成の大地主鍊輔の嫡男として明治 21 年 2 月 10 日生まれ、愛知三中を卒業後、近隣の酒造業者紅葉屋の**神田雷蔵**に師事して名古屋で金融業を営み、東京で活躍する相場師雷蔵を地元で支えていたようです。今年 20 日に**国の重要無形民俗文化財に指定された須成祭**は代々深田、後藤、奥田の三家が江戸の頃からダンナ衆として財政的支援をしていたといわれます。明治 5 年生まれの雷蔵は**渋沢栄一**とも親しく現東京証券取引所設立に尽力し、日露戦争後は神田銀行を設立、株式市場のみならず横浜倉庫の経営、逗子開成中学の再建、浮世絵コレクションなど八面六臂の活躍をされました。須成から名古屋進出にあたり、伊勢町界隈で近所の弟分・良矩が新株発行引受業、後藤家の御曹司は神田銀行名古屋支店長として全国進出の橋頭堡を築いていったようです。詳しく祖父良矩は語りませんが、神田の命にて財界人交流の場として蔦茂旅館を大正 2 年に買収、その後、住吉二丁目にも店舗展開して、地元の商工業者から新事業への資金調達のサロンの料亭で、細かい経営は従業員に任せる旦那衆でございました。趣味は**乗馬と狩猟**、イギリス貴族を気取るハイカラ兄さんとして大いに話題の遊興人であったようです。

しかしながら、昭和 2 年の金融恐慌により神田銀行破産、そして、良矩は須成深田家から勘当・個人破産全てを精算、表面上離婚した**妻・山田静江**（明治 25 年生）がマイナスから蔦茂旅館を再建、夜も十分に睡眠もとらずに接客して細腕繁盛記ながら宿屋として発展を遂げていくこととなります。

次回から、口伝で聞いた良矩爺さんの波乱万丈の人生など、お伝えしてまいります。



深田良矩の若き実業家時代



金融界の風雲児・浮世絵風俗肉筆名作コレクションで有名な神田雷蔵